



## 【JR四国】 年末手当交渉妥結!!

コロナ禍により危機的な経営状況が続く、会社との議論は平行線も、JR四国グループとしての使命を果たすべく職場で奮闘する組合員の努力、生活水準の維持を訴え、年末手当及び年末一時金に対する回答を引き出す!!

### ◆「1.21カ月」を確保!!

### ◆エキスパート社員の時金に係る係数0.6を死守!!

本部は「2021年度年末手当の要求(甲第6号)」、「準組合員(エキスパート社員)の年末一時金の要求(甲第7号)」及び「準組員(契約社員)の年末一時金の要求(甲第8号)」について、10月29日の主旨説明以降、要求獲得に向けて粘り強く交渉を行ってきた。

会社側は、コロナ禍の長期化により、2021年度中間決算で営業収益、営業利益が1997年度の中間決算公表開始以来、前年に次ぐ過去2番目に低い結果となったことを強調した上で、10月以降、収入も最も悪かった時期からは改善しつつあるも、先行きは見通せず、経営環境が引き続き極めて不安定な状態にあり、未だ会社発足以来最大の危機的状況の中にあるとの認識を示した。そして、年末手当について、決して楽観視できる状況ではなく、会社の存続ひいては雇用を維持するためには極めて厳しい検討が必要と示した。

## 【ジェイアール四国バス】 年末賞与は支給困難となるも 「特別一時金」の支給を引き出す!!

極めて厳しい経営環境により年末賞与の支給は困難との会社判断。しかし、雇用・生活の維持に不可欠と訴えた結果、特別一時金としての支給を引き出す!!

◆社員 150,000円  
◆月給・日給者 140,000円  
◆時給者 47,000円又は78,000円

本部は「2021年度年末賞与の要求(甲第9号)」及び「準組合員(契約社員)の年末賞与の要求(甲第10号)」について、11月2日に1回目、11月24日に2回目の交渉を行った。

主旨説明にて組合は、コロナ禍により会社が未曾有の危機の渦中にあり、これは承知するが、リスクを抱えながらも公共交通機関の担い手として安全・安定・安心輸送の確保に奮闘、各種会社施策へ最大限協力し会社を信じ懸命に働く組合員の思いに応えるよう強く要請した。

これに対し会社側は、これまでの取り組みは一定評価するものの、会社を取り巻く経営環境は極めて厳しい状況が続いており、年末賞与については会社を存続させようという資金状況を勘案しながら判断したいとし、非常に厳しい反応を示した。

これに屈せず、この間、会社の極めて厳しい経営状況を理解したうえで、会社施策(待

討とならざるを得ないとの考えを示した。

これに対して、鉄道事業・非鉄道事業のいずれの職場でも会社を支えるべく、役員が日々の業務に奮闘していること、さらには期末手当の減少等から生活水準の維持を求め、組合員の声を強く訴え続けた結果、会社側から「年末手当1.21カ月」「年末一時金1.61カ月」「エキスパート社員の時金に係る係数0.6」「契約社員の時金(詳細はJR四国労組ニュース参照)」との回答を引き出した。

交渉終了後、持ち帰り業務対策委員会を開催し、「会社の経営は極めて危機的状況の渦中にあるが、組合員の奮闘や生活給としての必要性を訴えた結果、夏季手当を下回ることを回避できたこと」「エキスパート組合員の期末一時金に乗じる係数について、今回も特別ではあるが夏季手当と同様に0.6への改善が図れたこと」等を議論し、引き続き組合員一丸となって安全・安心輸送の確立が最優先であることを前提に、収入の確保にも積極的に取り組むことを確認し、現時点において会社としての精一杯の回答であると判断し妥結した。

### 2022 税制改正大綱決定

JR四国労組は、これまでJR北海道・JR四国・JR貨物に対する支援実施に、組織の総力をあげ活動してきた。特に昨年JR連合とともに「JR産業」に関する緊急政策課題の解決を求め、署名」では全体で22万筆余りのうち、JR四国労組単独で35,355筆の集約という、組合員数を遙かに上回る筆数を、多くの理解と協力のもと実現した。その結果、新たな支援のための法改正とともに「四国」における新幹線整備の検討」や「税制特例措置の維持」が盛り込まれた。決議がなされ、今年度からJR四国に対しては5年間延長されることとなった。

これは、昨年来の署名活動等様々な行動、並びに「JR連合国会議員懇談会」、「21世紀の鉄道」を考える議員フォーラム」及び「四国の鉄道を考える国会議員連絡会」において当該特例措置の必要性を繰り返し訴えたことが結実したといえる。

今回の政策実現行動に、ご協力頂いた関係各位とともに、組合員の皆様にご協力をお願い申し上げます。

◆具体的内容

【二高特例を5年延長】  
北海道旅客鉄道株式会社及び四国旅客鉄道株式会社が所有し又は借り受けている固定資産に係る固定資産税、都市計画税を1/2とする軽減措置を5年延長

【三高特例を5年延長】  
北海道旅客鉄道株式会社及び四国旅客鉄道株式会社並びに日本貨物鉄道株式会社が国鉄から承継した本事業用固定資産に係る固定資産税、都市計画税の課税標準を3/5とする軽減措置を5年延長

## 第5回本部執行委員会開催

11月28日(日) 15時15分より、サンポートホール高松にて第5回本部執行委員会が開催された。

冒頭、大谷執行委員長は、先の衆議院議員選挙に対する取り組みについて御礼を述べた後、年末手当・年末賞与について、厳しい交渉となったと振り返るとともに、今後の課題についても鋭意取り組みたいと挨拶した。

経過報告と議事については次のとおり。

【経過報告】

- ・組織の強化・拡大
- ・組織の強化・拡大
- ・中間決算
- ・(JR四国・ジェイアール四国バス)
- ・(業務)
- ・予士線従来型ワンマン組自動車支部ニュースNo.4、6参照

③JR四国労組「第35回定期本部委員会」の開催について

④当面するスケジュールについて

⑤その他

命休職や賞与不支給、定期昇給一時的停止といった組合員の生活や雇用にも影響する内容も受け入れてきたことを改めて主張。年末賞与にこだわり粘り強く交渉してきたことから、昨年の夏季賞与、年末賞与、今年の夏季賞与に続き、今回も年末賞与の支給は困難との回答に納得は出来ないものの、特別一時金の支給を引き出した。

交渉終了後、持ち帰り業務対策委員会を開催し、「会社の経営は極めて厳しい状況が続いており、年末賞与については会社を存続させようという資金状況を勘案しながら判断したいとし、非常に厳しい反応を示した。」これに屈せず、この間、会社の極めて厳しい経営状況を理解したうえで、会社施策(待

び宇和島運転区の業務体制見直しについての申し入れに対する回答(団交)

- ・2021年度年末手当・年末賞与
- ・(JR四国・ジェイアール四国バス)
- ・(組織)
- ・退職者連絡会幹事大会
- ・(共闘)
- ・四国交通労働協定期総会
- ・(青女)
- ・アクティブユース2021
- ・(JR連合)
- ・女性役員意見交換会
- ・グループエリア連合代表者会議
- ・【議事】
- ①2021年度年末手当・年末賞与の受給承認について
- ②ダイヤ改正実施に伴う経営協議会の付議事項について



### 「賃金実態調査」のご協力に感謝!!

~回収率96.6%を達成!!~

「JR連合第28回賃金実態調査」は、JR四国労組で1,771枚(回収率96.6%)の回答を得た。組合員のご協力に厚く御礼申し上げます。

調査結果は、2022春季生活闘争や今後の賃金政策議論に向けた貴重なデータとして活用する。



**分会大会、全日程終了!**

JR四国労組で構成する39の分会において、12月4日までに全ての分会大会の日程を終了した。



出席した代議員より「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働条件の改善」に関する質疑や、年末手当等交渉の進捗、コロナ禍で停滞した活動を如何に活性化させるか等を中心とした質疑が行われた。執行部からの答弁の後、各議案は満場一致で採択され、最後に各分会長による力強い団結ガンパローで締めくくった。

分会は組合活動の原点であり、組合員同士のコミュニケーションを強化し、連帯感を高めることが組織の強化、拡大につながっていく。

各分会役員には、分会大会において決定した活動方針に沿って、世話役活動を充実させるとともに、より良い職場づくりに取り組みすることを要請する。

冒頭の主催者挨拶にて大谷執行委員長は、「日頃のJR四国労組運動への理解と協力に御礼を述べた後、コミュニケーション活動の重要性を説き、JR連合ビジョンに触れつつ、横のつながりを持つことができるのが組合であり分会組織であると述べた。

動の重要性」及び「JR四国労組の現状と課題」等について、中野執行委員、石川執行委員の講義に耳を傾け理解を深めた後、カリキュラムの最後にグループディスカッションを実施。日頃取り組んでいる活動での悩みや職場での問題点、開催を終えた分会大会の準備・運営をテーマに意見交換を行い、視点を変えた活動の手法や問題解決に向けた情報の共有を図ることができた。

**専門部会  
定期委員会開催**

業種別専門部会のうち、営業部会が12月6日(月)に、工務部会が12月11日(土)に、それぞれ本部1階会議室において定期委員会を開催。

経過報告の後、2021年度の活動方針(案)が提起され、安全や会社施策等について、専門部会としての観点から質疑が交わされた後、満場一致でこれを決定するとともに新役員を選出した。



(右) 営業部会には、駅・ワープ・列車乗務員の各分科会から委員が出席  
(左) 工務部会長の発声で団結ガンパロー

**第31回ゴルフ大会開催!**

藤原 康広さんが優勝!!



冬が目前に迫る11月30日(火)、「阿波富士」の別名を持つ霊峰高越山を望む丘陵地に位置する「四国カントリークラブ」



12月8日(水)、高松センタービル大ホールにおいて、ユニオンスクール「リーダーコース」を開催。日頃、組合活動に取り組んでいる支部・分会三役を対象とし、四国各地から集まった組合

ユニオンスクール  
「リーダーコース」  
開催

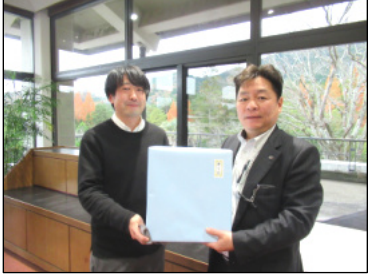
なお、成績は次のとおり。

- 優勝 藤原 康広さん (事業開発分会) グロス83 ネット72.2
- 準優勝 佐伯 嘉彦さん (松山運転所分会) グロス88 ネット72.4
- 3位 藤本 悠貴さん (徳島運転所分会) グロス82 ネット72.4
- ベストグロス 藤本 悠貴さん (徳島運転所分会) グロス82

※順位はネット順  
同ネットの場合、  
①年齢、②ハンデ、  
③グロスで順位決定



ナイスショット!!



優勝した藤原さん(左)

**退職者連絡会幹事会を開催**



11月19日(金) 11時より、本部1階会議室において「JR四国労組第1回退職者連絡会幹事会」が開催された。

幹事会には、清水会長をはじめ四国各地より役員及び各県代表の幹事ら9名が出席。来賓として、JR連合退職者連絡会高野会長、交通共済四国事業本部浅岡本部長らを迎えた。

幹事会では事務局から、一般経過報告、会計報告、会計監査報告、活動方針(案)及び予算(案)の提起を受け、政治への取り組みや交通共済生協の事業のあり方についてを中心に活発な質疑が行われた後、満場一致で全ての議事が承認された。



各部会は、9月に開催した部会三役会議にて、一年間の取り組みの総括及び部会活動の充実・強化に向け、任務の明確化と今後の活動内容等について議論し意思統一。その中で「答申」作業は年間を通しての活動と位置付け、検証作業などについても本部執行委員会と各部会がより連携した取り組みを行うことを確認している。



(右) 営業部会には、駅・ワープ・列車乗務員の各分科会から委員が出席  
(左) 工務部会長の発声で団結ガンパロー

**「第35回定期本部委員会」の開催について**

- 1 日時 2022年2月4日(金) 13時より17時まで
- 2 場所 「ホテルアネシス瀬戸大橋」
- 3 議題
  - (1) 定期大会以降の経過について
  - (2) 2022春季生活闘争方針をはじめとする当面の活動方針(案)
  - (3) その他

JR四国労組  
LINE公式アカウント

登録は無料です

JR四国労組ホームページの更新をお知らせします